

2015年3月31日

アフラック最高顧問 大竹美喜の退任について

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長：山内 裕司）は、当社の創業者で現最高顧問の大竹美喜（おおたけ よしき）が2015年3月31日付にて退任し、社業を離れることを発表します。2003年に会長を退任し経営の第一線から離れた後も、今日まで最高顧問としてマネジメントをサポートしてきましたが、アフラック米国本社の規定（75歳で完全リタイアし、社業を離れるとした規定）により、今月末をもって、最高顧問を退任することとなりました。

■アフラック創業者・最高顧問 大竹美喜 略歴

1939年5月広島県生まれ。広島県立農業短期大学（現 県立広島大学）卒業後、農業指導員を目指し米国に留学。63年に帰国後、代議士秘書、損害保険代理店などいくつかの職業を経た後、1974年アフラック日本社を設立し、副社長に就任（35歳）した。1986年日本における代表者・社長に就任、1995年日本における代表者・会長、2003年から最高顧問（現在75歳）。

創業2年前の1972年（33歳）、米国Aflacの創業者・エイモス三兄弟から日本進出の要請を受け、引き受けることを決意。日本初の「がん保険」の発売に向け、各方面への折衝に奔走した。1974年10月に事業認可を受けた後、わずか1ヵ月半で「がん保険」の発売にこぎつけた。40年前に誕生した日本初のがん保険は、いまでは、業界全体の保有契約で2,100万件を超え（2014年3月末時点）、当社の40年間での給付金等の累計お支払い金額は6兆円（2014年6月末時点）を突破している。また、当時、損保業界でしか導入されていなかった代理店制度を生命保険会社に初めて本格導入し、現在では1万5,000店を超える当社の代理店網の礎を築くなど、日本の保険市場に多くの新たな価値を創造してきた。

1986年に46歳で日本における代表者・社長に就任すると、創業者としての強力なリーダーシップのもと、商品力の強化と活力ある組織づくりを強力に推し進め、1995年には日本における代表者・会長に就任。当時の経営陣とともに（日本版）金融ビッグバンなどによる困難な経営環境に対応しながら、アフラックに高い競争力の商品やサービス、ビジネスパートナーの拡大など新たな価値をもたらし、当社を「生きるための保険」のリーディングカンパニーとして今日あるポジションにまで成長させた。

そして、2003年に会長を退任し経営の第一線から離れた後も、今日まで最高顧問としてマネジメントをサポートしながら広く社会への貢献活動を行ってきた。

社外活動においては、株式会社産業経済新聞社取締役、教育再生実行会議有識者メンバーなど多くの役職に就いているほか、NPO 法人きらめき未来塾名誉塾長、公立大学法人県立広島大学経営審議会委員、学校法人明治学院特別顧問などを務め人材育成にも力を入れている。

主な表彰・褒章歴として、当社が本拠地を置くジョージア州の名誉州民とコロンバス市の名誉市民に選ばれている。また、2000年米国経済誌『ビジネスウィーク(Business Week)』で「アジアのスター50人」に選出された。2001年には藍綬褒章を受章した。

■最高顧問退任にあたって

私が Aflac 米国本社の創業者と出会い、日本社の創業に奔走することになってから43年が経過しました。当時、「がん」は死の病といわれ、口にすることもはばかれた時代でした。そんな時代に創業を決断したのは、「この仕事は必ず世の中のためになる」という確信と、「がん保険の普及は私の使命である」との強い想いがあったからに他なりません。創業以来、多くのステークホルダーの皆様とこの想いを共にしてきました。あらためて、アフラックの成長を支えていただいた、また私自身がお世話になった社内外の多くの皆様に、心から感謝申し上げます。